



東京YMCA

2015 6 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

役員改選 新体制へ 会員と共に使命に向かって

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

理事

廣田光司

◎代表理事



- ①東京YMCA総主事
- ②日本基督教団滝野川教会
- ③東京ワイズメンズクラブ
- ④75年千葉YMCA入職

飯靖子



- ①オルガニスト／洗足学園大学講師ほか
- ②日本基督教団霊南坂教会
- ④(故・飯忍主事夫人)

河本晶介



- ①松本学園理事
- ②日本基督教団東美教会
- ④東京YMCA学院理事・評議員、西東京センター元委員

神保正男



- ①東京女子大学監事
- ②カトリック戸部教会

中井博雅



- ①エーザイ(株)元会長
- ②日本基督教団早稲田教会
- ④元常議員

村杉克己



- ①(株)藤工芸代表取締役
- ②日本基督教団浅草教会
- ③東京北ワイズメンズクラブ
- ④会員部運営委員ほか

菅谷淳



- ①東京YMCA副総主事
- ②日本基督教団市川三本松教会
- ④86年東京YMCA入職
- 01〜09年とちぎYMCA出向

▼評議員会とは、事業内容や予算など法人全般にかかる決議権をもつ、いわば最高決議機関。理事・監事も評議員会が選任する。
▼理事会は、業務執行についての決定権のほか、代表理事等の選任や解職の決定権をもつ。
理事の任期は2年、評議員は4年。再任は妨げないルールとなっている。

監事

寺門文雄



- ①税理士／東京神学大学元監事ほか
- ②日本基督教団代田教会
- ③東京世田谷ワイズメンズクラブ
- ④50年継続会員

本行輝雄



- ①元ロータリーの友事務所所長
- ②日本基督教団千葉教会
- ④東京YMCA・千葉YMCA・日本YMCA同盟元主事

評議員

勝田正佳



- ◎評議員会会長
- ①日本基督教団年金局監事、公益法人推進会常務理事
- ②横浜指路教会
- ④元常議員、主事退職基金運営委員ほか

阿久戸光晴



- ①聖学院理事長・院長(元大同学長)
- ②日本基督教団滝野川教会(牧師)
- ④一橋大学YMCA・OB

上田晶平



- ①上田八木短資(株)取締役社長
- ④世田谷ランチ(現・南センター)元ボランティアリーダー

上原靖弘



- ①三井住友銀行国際協力財団評議員
- ③東京ワイズメンズクラブ
- ④元常議員

尾崎(渡辺)久美子



- ①国際基督教大学准教授
- ②ICU教会
- ④武蔵野ランチ(現・西東京センター)リーダーOG、元委員ほか

小原武夫



- ①中央石油(株)代表取締役
- ③東京世田谷ワイズメンズクラブ
- ④会員部元運営委員長／南センター運営委員ほか

久保田貞祝



- ③東京八王子ワイズメンズクラブ
- ④日本YMCA同盟常議員、東京YMCA学院評議員

古賀博



- ◎評議員会副会長
- ①牧師／日本基督教団早稲田教会
- ④山手学舎運営委員、各種YMCA職員研修講師

田中壽夫



- ◎評議員会副会長
- ①(株)フューチャート相談役
- ②日本福音ルーテル日吉教会
- ④立教大学YMCA元理事長、OB

中内俊一郎



- ①(株)大和総研元役員／国際基督教大学評議員
- ④武蔵野ランチ(現・西東京センター)リーダーOB

松下欽三



- ①有限会社KYコーポレーション取締役
- ④ボランティアリーダーOB、山手学舎OB、東京YMCA学院監事

三谷高康



- ①桜美林大学学長
- ②日本基督教団紅葉坂教会
- ④大阪北YMCA元運営委員

宮内友弥



- ①松本学園理事
- ③東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ
- ④会員部運営委員ほか

桃井明男



- ②日本基督教団前橋教会
- ④東京YMCA元主事

山崎美貴子



- ①東京ボランティア・市民活動センター所長／神奈川県立保健福祉大学名誉教授
- ②日本基督教団鎌倉雪ノ下教会

山本和



- ①国際基督教大学理事長代理・常務理事
- ②日本基督教団富士見町教会
- ③東京ワイズメンズクラブ
- ④元常議員他

湯浅慶



- ①学校法人東京YMCA学院学院長
- ②北浦和聖書集会(陪席)
- ④東京YMCA元主事

若槻史郎



- ①(株)JACOM会長
- ②日本基督教団早稲田教会
- ④山手学舎OB・運営委員

赤三角

「今日は夕飯どうしますか？」「今晩は夕飯はいらないかな」「それじゃ〇〇は明日作りましよう」――出かける前の我が家の会話です。先日新聞によれば、リーマン不況や東日本大震災後、自宅で夕食を食べる「内食(うちしょく)」が増えているとのこと。ビジネスマンの約50%が毎日自宅で食事をしているとの調査もあるらしい。しかし、当方、YMCAなどの活動が楽しくて、なかなか内食が進みません。▼元氣、活氣、快活、陽氣、勇氣、そして生き甲斐をいただける奉仕活動。多くの方々との親交をとおして、あらたなエネルギーもいただける。そうですね、人から押し付けられたり、強制されたりするものでなく、自分の意思を基本に、主体的に行う奉仕活動は楽しいものです▼そして、そんな活動が続けるには、伴侶がいかに理解いたかくかが大切なポイントの一つになります。「父さん元氣で留守がいい」を真に受けて、誕生日や結婚記念日を忘れたふりしている場合ではありませぬね▼けれどもこうしてだれかに「迷惑をかけながらも」、喜びも悲しみも共に分かち合える奉仕活動が続けられることは嬉しいことです。(評議員、会員部前運営委員長 小原武夫)

研修報告 「地球市民育成指導者研修」@フィリピン

会員部 職員 伊藤 剛士



4月23日～29日、フィリピン・バギオYMCAで「地球市民育成指導者研修」が行われました。この研修はアジア太平洋YMCA同盟の主催で、11カ国より20名のYMCA若手（ユース）職員等が参加し、日本からは横浜・大阪YMCAのスタッフと私の計3名が参加しました。

地球市民育成は、日本・世界のYMCAで重点的に取り組まれているユースの教育プログラムです。YMCAの提示する地球市民とは、「①世界、国内、地域などの規模に関係なく、同じ社会で生きる一人の人間として社会的責任を果たすこと」「②現在の社会（コミュニティ）の課題に対し解決策を見出し、持続可能な社会へ向け変革を行なう活動に取り組むこと」と捉えられます。日本YMCA同盟では2009年より、毎年60名余りの国内外のユースが通年の地球市民育成プログラムを受講しています。

今回の研修では、地球市民育成プログラムを推進するスタッフを対象に、今後各地で推進すべき研修プランを体験する実践的なトレーニングが行なわれました。そこではコミュニティに入り込み、地域住民と協同しながら課題を発見・解決していくことが強調されました。参加者は研修初日にグローバリゼーションや社会分析法の講義を受けた後に、フィリピンの農村または鉱山に2泊3日のホームステイをしながらフィールドワークやインタビューを行い、その後コミュニティの課題評価を行い、その解決のためにYMCAが協同で行える行動（アクション）の立案を行いました。今回の研修はモデルケースとしてフィリピンで行われましたが、今後は日本各地でアクションの実行も含めた同様のプログラムを行うことが求められています。

YMCAの地球市民育成は、ユースが地域の中で課題を発見し、連帯し、解決に向けて取り組みます。YMCAにはそのようなユースの運動を展開するリソース（人・ファン・施設・ノウハウ等）が既にあると思います。地域・世界の未来を担う若者の居場所として、YMCAが今後さらなる役割を担えることを期待しています。

祝 叙勲



春の叙勲で、YMCAの2人の会員が受章されました。お2人に、そのご経歴などをうかがいました。（聞き手・文＝広報室）

きよくじつしよじゆしやう
旭日小綬章

佐野和夫さん（74）

元日本水泳連盟会長



受章が報じられた翌日、自身が載った新聞を持ってYMCAを訪れた。「多くの人に支えられてきたことを思い、感謝の気持ちがこみあげた」と言う。

YMCAとの出会いは60年前。高校生の頃、神田のYMCAの少年部で、キャンプや水泳、ハンドボールなどをして、大学で水泳部に入ってきた。「多くの人に支えられてきたことを思い、感謝の気持ちがこみあげた」と言う。

95年に日本水泳連盟の役員になり、2001年には「世界水泳選手権大会福岡」の責任者を務める。134カ国から2450人が参加した日本初の世界大会で、資金集めなどにも奔走した。08年の北京オリンピックでは水泳選手団団長に抜擢され、北島康介選手の金2個を含む計6個のメダルを獲得。09年には同連盟会長に就任し、東京五輪・パラリンピックの招致にも貢献した。

退任後、日本知的障害者水泳連盟会長になってきた。「YMCAのプールではいつも隣で障がい者が練習していた。パラリンピックに向け、力になりたい」。

らんじゆほうしやう
藍綬褒章

矢野照子さん（79）

明るい選挙推進委員



「人の前に立つて活動するのは苦手だし、受章と言われてもピンとこなかった。楽しみながらやっていただけです」。照れくさそうに笑う。

1986年に町会長から頼まれて、江東区の「明るい選挙推進委員」になった。「やるからに

は責任をもとう」と、小中学校でのボスターコンクール、成人式でのアンケート、選挙期間中の世話役、地域の話し合い活動など、年間をとおして選挙を推進した。模擬投票の授業も、他区に先駆けて行なった。その30年

にわたる地道な活動が評価された。40年経った今も活動は続けている。

またその頃地域には、キリスト教団体としてのYMCAを敬遠する人が少なからずいた。しかし一方で地区の子ども会が全盛期。どうにかYMCAと地域とを結びつけた。機会を見つけてはリーダーを子ども会に送った。やがてそれが発展し、石島子ども会と、扇橋、千石など、8つの町で集まって運動会をやることになった。「八ヶ町運動会」の誕生である。「子どもの行事に宗教は関係ない」と町会長を説き、YMCAで準備会はプロ級である。

シリーズ 資料室の窓から(90)

「キャンプ」は「YMCA活動」

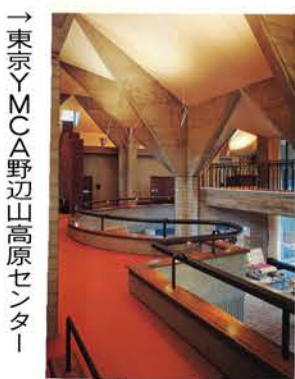
本会元副総理事 齊藤 實

YMCAのキャンプは「教育キャンプ」だ、と言っている。でも、私は、

YMCAでの体験総体を顧みて、YMCAが行うキャンプすべてを「YMCA活動」として自覚しなおす時は「今」だと感じている。

東京YMCAは野辺山に高原センターを献堂して、これを「東日本青少年野外活動センター」と呼んだ。命名の背後には、キャンプの使命と現状についての緊張と深慮遠望があった。1976年10月16日のことであった。翌年、神

戸YMCAで「余島キャンプ」が完成してこれを「西日本青少年野外活動センター」と呼んだ。キャンプ理念再構築とそれを具現すべき活動拠点、東京と神戸のYMCAは同じ呼称を与えて新展開に備えた。YMCAがYMCAとして踏まえるべき理念と実際とを共同で確立するための「野外教育研究協議会」を同じメンバーが両施設に相互宿泊して開いたのは必然であった。日本YMCAの「キャンプ活動再構築」の手掛りを共同でつかみ出そうとしたのであった。1976年11月と翌年4月の協議会の主題を一貫して《都市生活と野外生活》とした。野辺山で



→東京YMCA野辺山高原センターと野外生活



76年協議会紀要「都市生活と野外生活」

は、「都市に生きる人間の生活は、野外活動を包含して成り立つ」という立場を共有した。野外活動が環境教育へ、更に「生存のための教育」へと捉え直してきたことを学び、余島での「リーダーシップ」「自然」「プログラム」など各論を進めて共感を深め得た。

資料室には『都市生活と野外生活』と題したこの2回の協議会の報告書がある。是非読み合ってほしい。いま必要な行動を起こすきっかけを得るためにも。キャンプを「YMCA活動」として整え直す、とはどんなことか。「YMCA活動」とは何なのか。論じ合う場所、それが資料室なのだ。



今年新たに「東京YMCAユースボランティアリーダー」として登録された皆さんに、委嘱状が贈られた。これからの活躍が期待される。



第4部では、約30人のボランティアリーダーたちの歌唱指導により、会場全員でキャンプソングを歌った。

会員大会

ユースリーダーも30人参加

新委員長に村杉克己氏

東京YMCA会員大会が5月23日、東陽町センターで開催され、会員・職員など108人が参加した。この大会は、年に一度全会員を対象に、事業活動の報告と、委員の推挙や表彰、交流などを行なうもので、2003年の会則改正以来、今年で13回目となった。

第1部では、昨年度の報告と今年度計画の説明があり、続いて今年の会員部運営委員として、新任8人を含む20人が推挙された。(左枠)

第2部では、国際協力委員や元常議員として貢献された司治氏が名誉会員に推挙され、「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」には、2011年から31回にわたって石巻や女川を訪れ、被災者を励ましてきた「YMCA歌の広場 in 石巻・女川」の皆さんが選ばれた。また、「ユース・ボランティア・オブ・ザ・イヤー」として、各センターで活躍した4人のユースリーダーが表彰されたほか、新たに13人がユースボランティアリーダーとして委嘱された。昨年度末で卒業したリーダー10人には感謝状を贈呈。任期満了によって退任となった、小原武夫運営委員長を含む8人の会員部運営委員には記念品が贈呈された。なお、新しい会員部運営委員長には村杉

「第3部は、東陽町ウェルネスセンターのメンバーが所属する「ザ・スマッシュヤーズ」によるバンド演奏を聴き、軽食を囲みながら交流を楽しんだ。恒例のサイレントオークションには今年もホテルの宿泊券や蘭など多数の品を寄付いただき、益金は20万1,640円にのぼった。また、東日本大震災復興支援活動と、昨秋の日本YMCA大会について、担当職員から報告があった。

その後、ユースリーダーたちと一緒に全員でキャンプソングを歌う時間もあり、彼らの楽しく元気な指導で、会場に笑顔が広がった。最後に小原委員長より、さらなる会員活動の活性化と会員増強についてアピールがあり、全員で「YMCAの歌」を歌って閉会となった。

2015年度会員部運営委員

◆再任 (12名)

浅見 隆夫	笈川 光郎	太田 勝人
大橋めぐみ	神山 巍	蔵知 浩
小口多津子	小松 重雄	高嶋美知子
長谷川正雄	蒔田 敏雄	宮内 友弥

◆新任 (8名)

柿沼 敬喜	金丸 満雄	菰渕 光彦
直井 道子	中村 孝誠	長津 徹
村杉 克己	山口 直樹	

◆退任 (8名) *任期満了

小原 武夫	酢屋 善元	辰馬 行男
長澤 弘	中村 周三	藤江喜美子
三代川春一	吉田 紘子	

ユース ボランティア・オブ・ザ・イヤー Youth Volunteer of the Year

平中 葉さん (山手センター)

幼い頃のキャンパーとしての経験を活かし、特別支援活動、キャンプ、野尻の駐在など幅広く積極的に活動した。

八島 秀登さん (江東センター)

江東YMCA幼稚園卒園児。大学1年からリーダーとなり、野外活動や街頭募金、江東親睦会など数多くの活動に尽力。

中林 拓さん (南センター)

大学1年生から4年間、野外活動に参画。4年生のときには進路活動とも両立し、後輩リーダーたちの良きお手本ともなった。

池谷 悠太郎さん (西東京センター)

障がい児のグループ活動やキャンプ、水泳などに参加。リーダートレーニングでも活躍し他のリーダーからも慕われる。

名誉会員に推挙

司 治さん (81歳)



天馬株式会社取締役として、海外で事業展開した経験を活かし、1986年から東京YMCA国際協力事業委員を務められ、1991年～2005年に常議員ほか、財団監事、基金管理運営委員、ファンド開発委員などを歴任。また賛助会員としても長く支援いただいている。大会席上で司さんは「(この推挙は)もっと貢献するようという激励の意味と受け止めています」とあいさつされた。

ボランティア・オブ・ザ・イヤー 2014 Volunteer of the Year

「YMCA歌の広場 in 石巻・女川」ボランティアの皆さん



東日本大震災後、2011年11月から石巻や女川の仮設住宅、高齢者施設を訪問し、童謡や唱歌と一緒に唄い、交流することで被災者に寄り添い励ましてきた。南センター、山手センター、東陽町センターを母体とする3グループが協力し、これまで交替で31回にわたり現地を訪問。孤立しがちな高齢者や、仮設住宅でのコミュニティー作りに貢献してきた。訪問を楽しみにしている被災者も多く、数々の心の交流が生まれている。



3グループそれぞれに賞状が授与された。南センター(写真右上)、山手センター(左上)、東陽町センター(左下)

学校評価の好例として

医療福祉専門学校が 文科省手引きに協力

職業教育は国の発展に欠かせないとの考えにより、文科省は、数年前から専門学校の質の向上に力を入れています。そのためには学校の自己評価のほか、さまざまな角度からの評価と情報公開が欠かせないと、文科省は「学校評価を生かした専修学校の質保証・向上に向けて」専修学校における学校評価実践の手引き」を作成し、5月、全国の専門学校に配布されました。

この手引きは、効果的に評価を行うためのポイントについて、先進的な取り組み事例などを交えて解説しているものです。が、東京YMCA医療福祉専門学校(校長 八尾勝)は、その手引きを参考に、学校評価の好例として、文科省に協力しました。

昨年度導入された職業実践専門課程の認定制度によって、職業教育改革の動きが始まっています。一人ひとりの学生を大切に育て、この積み重ねに加えて、このように目に見える形に評価することが結局は学校評価につながるのです。

文科省は、その企画段階から関わり、作成に協力してきました。文科省から委託された実際の作成にあたった三菱総研の研究者は、当校の学校関係者評価委員会に臨席するなど、何度もYMCAに足を運びました。

昨年度導入された職業実践専門課程の認定制度によって、職業教育改革の動きが始まっています。一人ひとりの学生を大切に育て、この積み重ねに加えて、このように目に見える形に評価することが結局は学校評価につながるのです。

人を育てるキャンプ

すべての人を一つにしてください

「光に歩めよ 若き友よ 限りなき生長こそ 日々の祈なり」(小林彌太郎)

2015年の夏がやってきました。東京YMCAでは今年もたくさんの夏のプログラムが計画されています。

日本のYMCAが組織教育キャンプを始め、1920年、六甲山麓で始まりました。2020年にはYMCAキャンプ100年を迎えます。キャンプはYMCAの核であり、ボランティアリーダーがいて初めて魂

の成長が成就するので、YMCAはその営みを100年の間、地道に続けてきました。

今年第80回を迎える少年長期キャンプ「野尻学荘」の案内には「簡単な生活から真に、生きる喜びが発見できる」とあります。

YMCA会員の小林彌太郎さんが山中湖センターと野尻キャンプを東京YMCAに寄付してくださったのは1925年・1935年を輩出したことは歴史が証明しています。今年も将来の人物の卵が多勢育つことを祈ります。そこに神様の導きがありますように。(総主事 廣田光司)